

今後の講座実施計画及び目標（本年度の日付・テーマ・講師名入りのシラバスを別紙添付）

※シラバスが変更になった場合は速やかに財団までお送りください。

【授業科目の目的】

現在の世界では、グローバル化の進行とともに、国民国家の枠組みがしだいに相対化されつつあると同時に、国家を超えるような地域共同体への関心が高まっている。この授業では、言語や文化に関わるさまざまな現象を「アジア」という広がりの中かでとらえることによって、国家を超えた文化の在り方への認識を深めることで、文化面での「アジア共同体」の可能性を探っていく。なお、この授業はワンアジア財団による寄附講義である。

【授業科目の到達目標】

講義の目的は、言語と文化の視点から、アジア的空間の中での多様性と相互性を理解することにある。そのためには、現象を国単位でとらえるのではなく、国と国をまたがる横断的なものとして理解する視点が必要である。また、国のなかの多様性に注目することも重要である。ある。こうした見方を通じて、アジア共同体がそれぞれの社会の歴史や文化に支えられた豊かな多様性の世界であることを明らかにしていく。

【授業の内容】

毎回の授業は、外部から招へいたゲストスピーカーの講義が柱となる。予定している外部講師とテーマは下記「計画」に記した通り。日本語のほか英語、中国語、韓国語を使用する回もあるが、その際には日本語通訳を付ける。なお、講師と演題は変更する場合もある。

【計画（回数、日付、テーマ等）】

- 4月10日 オリエンテーション
- 17日 植村幸夫 (東京芸術大学音楽学部教授) アジアからみた朝鮮の民俗音楽
- 24日 高地薫 (大東文化大学講師) インドネシアの女性と政治、そしてアジア
- 5月 1日 国吉和子 (多摩美術大学講師) 近代日本のモダンダンスとアジア
- 8日 フフバートル (昭和女子大学教授) 映画が語るモンゴルの社会主義
- 15日 カン・ヒジョン (韓国西江大学教授) 仏教美術からみたアジア
- 29日 姜信子 (作家) 近代を越える語りの旅
- 6月 5日 嶽本新奈 (言語社会研究科特別研究員) 「からゆきさん」にとっての移動の経験とアジア
- 12日 Emily Wilcox (Michigan 大学准教授) 中国の京劇と朝鮮舞踊
- 19日 台湾 交渉中
- 26日 中国 交渉中
- 7月 3日 大泉さやか (東京大学教養学部特任助教) 現代ベトナムにおける「ベトナム文化」の位置づけの変遷
- 10日 木村晴美 (国立障害者リハビリテーションセンター教員) 手話が言語であることの本当の意味
- 17日 鄭俊坤 (ワンアジア財団主任研究員) アジア共同体の意味

※講義日程および内容は講師の都合等により変更になることがあります。

※記入欄が不足の場合は、別紙を添付してください。